

受賞

日高聰子

平成二十八年二月十六日 晴れ

名にし負ふ帝國ホテルに我はも來たりつ。

かかる高級ホテルに足踏み入ること己が半生がうち絶えてなかりしに哀しきは庶民小心者のさが、たかき人々の出で入りすらむこの場所に毛色の異なるを忽ち見顯はされ場違ひなり何用ぞと咎めらるることもぞといみじく怖ぢつつ震ふ震ふ正面玄關通過するほど、仰ぎて見れば天井の高く照明のきらきらしきはもとより果てもなき長廊下に立ち竝ぶホテルマンの恭しげに頭下げたる、うち見るままにいとど心後れてやがて人にも告げず密かに立ち返らまほしうおぼゆ。

目指すは三階の宴會場舞の間とか言ひし、前の晩に案内狀穴の開くほどまもりつつうち返しうち返し見覺えてし場所なれば今更うち忘れて迷ふべきにもあらぬものゆゑに、臆する心はただだと思ひ弱りて歸らばや歸らばやと繰り返さるものから、片つ心には別の聲して馬鹿馬鹿年甲斐なくかかる弱音は吐くべきものか、けふといふ日はただなる日にあらず文語賞の授賞式兼ねたる總會なれば構へて出席したまへとの案内にいと確かに返事しつるを忘れたるか、かく臆したるはいなき自意識過剰のあまりぞと自ら叱咤し動悸しづめてまづは受附の婦人らに軽く會釋しゆるゆる場内差し覗きたれば、いであないみじまばゆしとはかかることを言ふにや、眞白きテーブルの周りに正装の人人、いづち向きてもいかめしうものものしきスーツ姿のひまなくゆき違ひ、いと慣れ顔に名刺交換などしたるを呆れて眺めつつ、梅檀の園に野良犬一匹迷ひ入りたらむ心地してはしたなくも心細くもわびしくもげに我が身の置き所ぞなかりける。

さてもいかなる奇跡の生じて地味一邊倒に過ぐし來つる我が身のかかる華やかなる交じらひに片時にても立ち交じるらむ、いでいかなることのありしぞと來し方つくづく思ひ見るにまづ中學高校古文の成績はわるかりき、そのかみ大草原の小さな家とてアメリカドラマの流行りたるに心奪はれ兩頬のにきび潰しつつアメリカに行きたやなアメリカ人になりたやなといとはかなき願ひを心に染めて英語にのみ心入れさらぬ教科は見向きもせず、よしよし我はいづれ英語にて身を立てむ、人より立ち勝るもの一つもあらむにまづはこの世を安く過ぐしつべしと思ひなしてはかつがつ短大の英語科に進路を定め意氣揚々と身をもてなすに、ままならぬは人の世諺にも井の中の蛙と言ひ古したることぐさのやがて身に染みて思ひ知らるるが世の常、さるは津々浦々より歸國子女ちふ人々の集へる學校なりければ同じく机を並べてもはかなき發音一つとて足元にも及ばずネイティブの講師らと樂しげに語らふを遠巻きにうち眺めつつ叶はじ叶はじ逆立ちすともえ叶はじや、さるは英語といふものはかの人々がやうに早うより英語圈に身を置き朝夕身近に聞き慣らはしつつ耳に覚え口に習ひ自然に身に著くべきものにこそ、中高の成績少し良かりしとて肩竝ぶべきにも

あらぬものなりと思ひとりてはさばかりの英語熱もおのづから冷めゆきて卒業までの成績は中の下、なかなか課外の奉仕活動にいとよく勵みし果ては介護の仕事として思ひも寄らざりしかたに進みたれば周囲の驚きただ思ひやるべし。

さるはこの介護といふ仕事要領得ぬ新人の頃は手荒れ腰痛み辛きこと限りなし、飛びかふ怒聲罵聲に疲れ果てほとほと心折れぬべきに、如何なる折にか古語古文のいみじく優に艶なる響きのふと思ひ出でられて覺えたる限り心の内にうち誦したるにこよなく心安らぎ慰めらるるを、昔はいとよしとも覺えずをさをさ顧みざりし言語なれどいまかく心うちに繰り返すに我が心に叶ふ心地するを今からでもまねびとりつべしや、今更學校に戻るべきにもあらねば仕事の傍ら獨學にて學ぶべけれどいでなにわざして効率よくは習得すべきと思ひ回すほど昔の英語の件ふと思ひ出でられて、そよそよまづは意味を尋ねず耳に慣らし口に慣らし幼な子が母の語るを自然にまねぶが如く覺えゆかむ、さるは古語とて今の世にネイティブのあるべきならねばヒアリング教材にすべきものはなし、かつがつ己が聲にて音讀しそれをテープに吹き込み暇のまにまに耳に聞き慣らさむかし、正しき發音抑揚など知らねど聽く人我より他にあらぬものを恥ぢすべきにもあらず、千年まれ二千年まれ昔の人の日夜用ゐたりつらむ言葉さりともし同じき日本人の習ひとらではあるべきものと愚者の一念まづは音にのみ聞きつる源氏物語五十四帖、店にて長きテープ探すに百五十分テープといふもの見出でたる、それにうち繼ぎうち繼ぎ音讀し吹き込みつつテープの巻二十あまりになりもやしけむ、さすがに讀み終へつべき頃には聲も哽れてよろぼひながらも嬉しきこと限りなし、これこの世に一つの古文のヒアリング教材ぞと實に思ひて家事の合間にテープ流して聞き入るるほど、家人は何やらむ讀經のやうにも聞こゆるかな煩し煩しと苦笑ひして耳覆ふ、我は古文のネイティブになるぞかしとうち笑ひつつなほ繰り返し繰り返し聽くほどにテープはやうやう伸び果てぬ。

さすがに三四年ばかりほど經ぬれば、いたづらに耳に聞き流すのみならず物語のありやう人々の語らひ四季の移り行く描寫などほのぼの聞き分くほどにもなりにたるに、ひと日朝刊に文語の苑とて文語體殘さむの活動する人々の記事見出でたり、嬉しやなここの年頃かかることの學びし一つありありて、心一つには古文ヒアリングの檢定あらむにはまづまづの級をぞ得べきと思ひ上りてありながら、世になき言語のまねびに心入れたるあな醉狂なと必ず思はれむものゆゑに人に語るはものつましうていと孤獨なる趣味と思ひつるを、さらばこの人々は我と同じくいにしへの言葉を愛づるにこそ、我は古文と言ひ慣らはしに正しくは文語といふにこそありけれ、また會の趣旨とて讀みもてゆけばもの書くことを勧むる會となむ、いでいかにしてこの人々に近づきもの書くことをまねばむと早る心を抑へつつ即ちメールにて連絡し入會せしが思へば事の始まり我が原點といふべきか、この場にてもの書くことやうやう覺え年月移りてはや九年にもなりぬ、かかる目出度き席に假初にも立ち交じり賞さへ與へられたるを有難くも忝くもいかが心の内に思はざらめや。